

音と音楽の基礎知識・用語 by 佐藤賢太郎 (Ken-P)

音の要素=音高・音量・音色

基音=ある音に含まれる音高として認識される周波数

上音=Overtone ある音に含まれる音色として認識される上部周波数 (群)

倍音=Harmonics/Partial 上音のうち、基音の整数倍の周波数 (群)

音楽の要素=旋律・メロディー、和声・ハーモニー、律動・リズム

テクスチャー=書法・旋律と和音などの組み合わせ方

モノフォニー=単旋律

ヘテロフォニー=単旋律が色々な変奏と共に一斉に演奏される

ポリフォニー=多旋律が一斉に奏される (対位的)

ホモフォニー=旋律と和音やサポート (和声法的)

対位法=多数のメロディーを一度に書くことを主眼とした書法 水平的

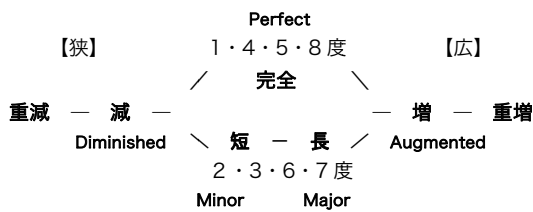
和声法=調性感や和音を前面に出した書法 垂直的

教会旋法・モード=中世・ルネサンスまで使用された音列

調性=長調・短調、主音・属音、導音が主音に解決を望む音楽感覚

無調=調性が感じられないこと

音程=インターバル・音と音の距離関係 (&質)



和音=2つ以上の異なる音が同時演奏されたもの。

三和音=トライアド・3つの音で構成されている和音

四和音=4つの音で構成されている和音「7の和音」とも

根音・ルート=和音の一番下の音。ドミソのド

第三音・サード=根音と3度関係の音。ドミソのミ

第五音・フィフス=根音と5度関係の音。ドミソのソ

第七音・セブンス=根音と7度関係の音。ドミソシのシ

長三和音・メジャー=根・長3・完全5 例・C

短三和音・マイナー=根・短3・完全5 例・Cm

減三和音・ディミニッシュ=根・短3・減5 例・Cdim

増三和音・オーグメンティッド=根・長3・増5 例・Caug

メジャーセブンス=根・長3・完全5・長7 例・CM7

(ドミナント) **セブンス**=根・長3・完全5・短7 例・C7

マイナーセブンス=根・短3・完全5・短7 例・Cm7

ハーフディミニッシュセブンス=根・短3・減5・短7 例・Cm7(b5)

ディミニッシュセブンス=根・短3・減5・減7 例・Cdim7

主音・トニック=ある調の音階の最初の音・八長調のド

属音・ドミナント=ある調の音階の5番目の音・八長調のソ

下属音・サブドミナント=ある調の音階の4番目の音・八長調のファ

導音=ある調の音階の7番目で主音と半音関係の音 八長調ならシ

主和音・トニックコード=主音が根音の三和音

属和音・ドミナントコード=属音が根音の三和音

下属和音・サブドミナントコード=下属音が根音の三和音

係留・サスペンション=ある音の解決が遅れている状態 例・Csus4

和音の基本形・ルートポジション=ある和音の根音がバスにある状態

和音の転回・インバージョン=第三・五・七音などがバスにある状態

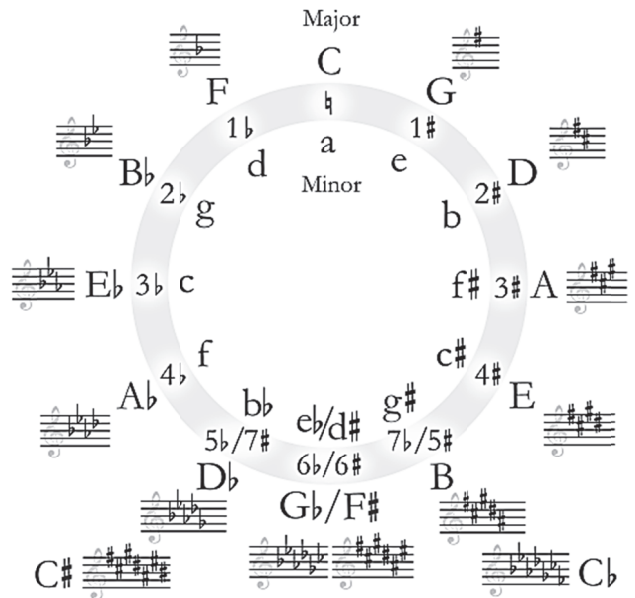
第一転回形・1st Inversion=ある和音の第三音がバスにある形

第二転回形・2nd Inversion=ある和音の第五音がバスにある形

第三転回形・3rd Inversion=ある和音の第七音がバスにある形

五度圏 (Circle of 5th)

調号#の順→ファ・ド・ソ・レ・ラ・ミ・シ←調号♭の順



主調=基準となる調

関係調・近親調=ある調と「近い関係」にある調

属調=ある調の属音から始まる調 例・八長調の属調はト長調

下属調=ある調の下属音から始まる調 例・八長調の下属調はヘ長調

平行調=調号を共有する長調と短調 例・八長調とイ短調は平行調の関係

同主調=同一の主音をもつ長調と短調 例・八長調と八短調は同主調

英語音名

C, D, E, F, G, A, B

半音上は# (sharp)、下は♭ (flat)追加

ドイツ語音名

C, D, E, F, G, A, H

半音上がると Cis, Dis, Eis, Fis, Gis, Ais, His

半音下がると Ces, Des, Es, Fes, Ges, As, B

イタリア語音名

Do, Re, Mi, Fa, Sol, La, Si

半音上は#・diesis、下は♭・bemolleを追加

フランス語音名

Ut/Do, Re, Mi, Fa, Sol, La, Si

半音上は#・dièse、下は♭・bémolを追加

ソルミゼーション・階名 (Ken-P式・半音階対応拡張版)

Di/Ra		Ri/Me		Fi/Se		Si/Le		Li/Te		
Do/To	Re	Mi/Fe	Fa/Ma	So	La	Ti/De	Do/To			

*Di・Ri・Fi・Si・Liは#系、Ra・Me・Se・Le・Teは♭系の変化音に使う。B#はTo、C♭はDe。

楽式=音楽の形式 (フォーム)

モチーフ・動機=いくつかの音符ないし休符の特徴的な連なり

フレーズ=モチーフなどが組み合わさってきた一区切りの連なり

テーマ・主題=音楽の主要・中心となる旋律やリズム的な特徴を持つ段落

一部形式=A または AAAA…

二部形式=AB または ABABAB…

三部形式=ABA または ABA, ABA, ABA…

複合三部形式=ABA/CDC/ABA

ロンド形式=ABACADA… 異なる旋律を挟んで同じ旋律が繰り返す

ソナタ形式=提示部・展開部・再現部 大きな意味では三部形式の一種

提示部=通常は2つのテーマを持つ

展開部=2つのテーマを発展・変化させる

再現部=提示部を少し異なった形で再現する

西洋音楽史

700~1450

中世。単旋律・グレゴリオ聖歌から多声音楽へ

1450~1600

ルネサンス。多声音楽・ポリフォニー・声楽の時代

1600~1750

バロック。長・短音階と和音、ホモフォニーへ

1750~1825

古典 (クラシック)。和声と調性の確立

1825~1900

ロマン。調性の発展、ドイツ vs 国民楽派、中産階級の音楽

20世紀初頭

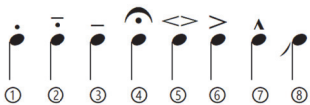
印象、新古典、新ウィーン、ドイツ表現、そして「前衛」へ

強弱記号 ダイナミクス (英)・デュナーミク (独)

<i>n</i>	ニエンテ	無音
<i>ppp</i>	ピアノッシッシモ	できるだけ弱く
<i>pp</i>	ピアノッシモ	とても弱く
<i>p</i>	ピアノ	弱く
<i>mp</i>	メゾ・ピアノ	弱めに
<i>mf</i>	メゾ・フォルテ	強めに
<i>f</i>	フォルテ	強く
<i>ff</i>	フォルテッシモ	とても強く
<i>fff</i>	フォルテッシッシモ	極めて強く
<i>fp</i>	フォルテピアノ	強くはじめて弱く
sotto voce	ソット・ヴォーチェ	弱い声で
mezza voce	メツツァ・ヴォーチェ	半分の声で

crescendo/cresc.	クリシェンド・徐々に強く
diminuendo/dim.	ディミヌエンド・徐々に弱く
decrescendo/decresc.	ディクリシェンド・徐々に弱く

奏法・アーティキュレーション (英)



- ①スタッカート (短く・離して弾く)
 - ②テヌート・スタッカート
 - ③テヌート (十分に長く)
 - ④フェルマータ (ほどよく伸ばす・長く)
 - ⑤ソフト・アクセント (音の出だしを少し強く・柔らかなアクセント)
*メッサ・ディ・ボーチェ (音符の中で小<大>小) との違いに注意
 - ⑥アクセント (強く)
 - ⑦アキュート・アクセント (より強く)
 - ⑧ショート・グリスアップ (しゃくり・しゃくり上げ)
- sfz, sf* スフォルツァンド (強く)
fz フォルツァンド (強く)
rf, rfz リンフォルツァンド (強く)
 B.F. ブッシュ・フェルメ (閉じた口・ハミング)
 B.O. ブッシュ・ウヴェルト (開いた口・開口鼻音または母音) *常用外

楽想・発想

agitato	アジタート (せき込んで)
amabile	アマービレ (愛らしく)
animato	アニマト (生き生きと)
appassionato	アパッショナート (情熱的に)
arioso	アリオゾ (歌うように)
brillante	ブリランテ (輝かしく)
con brio	コン・ブリオ (快活さと共に)
cantabile	カンタービレ (歌うように)
dolce	ドルチェ (柔らかに・優しく)
elegante	エレガント (優雅に)
energico	エネルジコ (精力的に)
espressivo/espres.	エスプレッシーボ (表情豊かに)
grandioso	グランディオソ (堂々と)
grave	グラヴェ (重々しく)
lamentabile	ラメンタービレ (悲しげに)
leggiero	レジェーロ (軽く)
maestoso	マエストーゾ (威厳をもって)
misterioso	ミステリオソ (神秘的に)
pesante	ペザンテ (重々しく)
risoluto	リゾルート (決然と)
simile	シミレ (前と同じく、同じように)
spirituoso	スピリトゥーゾ (元気に)
tranquillo	トランクイッロ (穏やかに)

速度・テンポ

Grave	グラーベ	♩ ≈ 40
Largo	ラルゴ	♩ ≈ 40~60
Lento	レント	♩ ≈ 45~60
Larghetto	ラルゲット	ラルゴより少し速い
Adagio	アダージョ	♩ ≈ 66~76
Adagietto	アダジェット	アダージョより少し速い
Andante	アンダンテ	♩ ≈ 76~108 歩く速さで
Andantino	アンダンティーノ	アンダンテより少し速い
Andante Moderato		アンダンテとモデラートの中間
Moderato	モデラート	♩ ≈ 108~120
Allegretto	アレグレット	アレグロより少し遅い
Allegro Moderato		アレグロとモデラートの中間
Allegro	アレグロ	♩ ≈ 120~156
Vivace	ヴィヴァーチェ	♩ ≈ 156~176
Presto	プレスト	♩ ≈ 168~200
Prestissimo	プレスティッシモ	♩ ≈ 192~

速度・テンポ変化 アゴーギク (独)・アゴーギクス (英)

a tempo	ア・テンポ (元の速さで)
accelerando/accel.	アツチェレランド (徐々に早く)
ad libitum/ad lib.	アド・リビトゥム (自由に・アドリブで)
L'istesso tempo	リステッソ・テンポ (同じ速さで)
rallentando/rall.	ラレンタンド (徐々に遅く・自然に緩やかに)
ritardando/rit./ritard.	リタルダンド (徐々に遅く・意識的に遅く)
ritenuto/riten.	リテヌート (すぐ遅く)
smorzando/smorz.	スモルツァンド (徐々に消える・徐々に弱く遅く)
stringendo/string.	ストリンジェンド (徐々にせき込んで・急いで)
Tempo Primo	テンポ・プリモ (最初の速さで)
tempo rubato	テンポ・ルバート (テンポを自由に変化させて)

付加語など

assai	アッサイ (非常に・very)
con	コン (共に・with)
e	エ (〜と・and)
ma	マ (しかし・but)
meno	メノ (より少なく・less)
molto	モルト (非常に・very)
non troppo	ノン・トロッポ (あまり〜すぎず・not too much)
non tanto	ノン・タント (多すぎず・not so much)
più	ピウ (より多く・more)
poco	ポコ (少し・little)
poco a poco	ポコ・ア・ポコ (徐々に・little by little)
quasi	クワジ (おおよそ)
sempre	センプレ (常に・always)
senza	センツァ (〜なしで・without)
subito	スビト (急に・suddenly)
un poco	ウン・ポーコ (少し・a little)

繰り返し記号・リピート記号など

ℳ (Segno)	セーニョ
⌘ (Coda)	コーダ
<i>fine</i>	フィーネ (終わり) * ◡ (フェルマータ)で代用される時も
<i>D.S.</i> (Dal Segno)	ダル・セーニョ (セーニョに移動)
<i>D.C.</i> (Da Capo)	ダ・カーポ (始めに戻る<fineで終わる/⌘に飛ぶ>)
<i>al fine</i>	アル・フィーネ (<i>fine</i> で終わる)
<i>al coda</i>	アル・コーダ (コーダに移動)
to ⌘ (to Coda)	トゥー・コーダ (コーダに移動)